イスラ ムにおける正

4.0

明:

正 は、イスラ ムにおける一つの基本的目 であり、 理的美 でもあります。そして正 の基 は、クルアンによって考察されるのです。

目: 事禁 行 とその 践スラ ム的モラルと

より: IslamReligion.com

日14 Jun 2010

集日 07 Aug 2011

正の意味



イスラ ム的世界 において、正 とは物事を 切な 所に据え置くことを意味します。また、他者に して平等に接するという意味もあります。またイスラ ムにおける正 とは、西欧的 においてもそうであるように、一つの 理的美 でもあり、人 としての人格の属性の一つでもあります。また正 は、 利と の配分における平衡状 を 生させる、という意味では「平等」という意味に近いかもしれませんが、完全に同じ意味ではありません。というのも に正 は、富の配分の不均等な分配などといった、ある の不平等をもって遂行されることがあるからです。

また神はその使徒(ムハンマド)に、このように りかけられています:

このように、正 は物事をあるべき 所に配置するという意味からも、 理的廉直さと公平 さを表しているのです。

正 の重要性

イスラ ムにおける なる 典であるクルア ンは、正 を最高位の美 と なしています。それは イスラ ムの基本的目 の一つであり、神のみが崇 される 利を有するという信仰(タウヒ ド信仰)や、ムハンマドが真の使徒であるという信仰に次いで、 先 位の高いものと な されているのです。神はクルア ンの中でこう仰ります:

????????????????...???????16?90?

また の章では、こう仰っています:

つまりここから、正 はイスラ ムが命じる の一つであり、不正は禁じられているという を き出すことが出来ます。クルア ンの 体系において正 がその中心を占めているという ことは、次に示すクルア ンの章によって展 されています:

上 の「われらの使徒」というフレ ズは、正 こそが人 に下された全ての 示と 典の目的であることを示しています。またこの句は、正 が 示によって 定された基 と指 に基づいて定められ、 施されなければならないことも表しています。イスラ ムの正 に する取り み方は、包括的かつ なものです。正 へと く全ての手段は、イスラ ム法に 和したものでなければなりません。神は正 をご命じになられましたが、そのための特定の道は指定さ

れず、その の方法に する一般的な指 を示されただけでした。神は、正 を するための固定された手段を 定もされなければ、正 へと くある特定の手段や手法を ともされなかったのです。ゆえに正 に する要因を 展 化させ、容易なものとする全ての手段と 置、手法は、イスラ ム法に抵触しない限り有 なのです[』]

正 における平等

正 に するクルア ンの基 は、人 や宗教、肌の色や信条などの概念を超越するものです。 ムスリムは自らの に しても、自らの友人に するのと同 に、そしてあらゆるレベルにお いて、公正であるよう命じられているのです。クルア ンにはこうあります:

またクルア ンの の件には、こうあります:

また非ムスリムとの について、クルア ンは以下のように っています:

そしてクルア ン学者らは、これらの 定はあらゆる社会とあらゆる信仰の追 者、そして のところは全人 に 用されるものである、と 付けていま<u>す</u>。

クルア ン的 点においては、正 は一つの なのです。 言者ムハンマドが以下のように命じられたのは、こういった理由からなのです:

更には、使徒ムハンマドは人々の裁き手として遣わされたのです。彼はこう言うよう 、命じられました:

またクルア ンの中では、それが主として信仰と正 に する原 の 立のために捧げられた 典であるということが述べられています。クルア ンは全人に正 が行き渡り、かつそれがイスラ ム法において全人 が有する生得 となることを要求しているので 33 正 における根本的基 に してのクルア ンの 的努力は、以下の宣言の中に 出すことが出来るでしょう。

イスラ ムは正 を、それ以外の全ての信 同 、神が人 に授けられた信 の内の一つと なします。ゆえにその遂行にあたっては、 なる法 定の作成といった画一的な次元を越え、 任 感を み めつつ任 を り行わなければならないのです。クルア ンはこう言っています:

上 の では、信 の完遂についての言及の 、すぐさま正 について言及されています。この ことは正 が、全ての信 の中でも最も重要なものの一つであることを示していると言え るでしょう。[4]

正と自己

正 に するクルア ンの概念は、正 を一つの 人的美 、そして 理的美点の基 の一つという位にまで至らしめています。そして信仰者は、それを敬神の念の一部として 得すること を 励されているのです。神はこう仰っています:

また 言者ムハンマドは、こう教示しています:

?????????????????[5]

クルア ンは信仰者に、こう っています:

クルア ンの中で められている正 の具体例

クルア ンは、正 に する特定の 例や背景にも言及しています。その例の一つに、孤 に する公正な いに する命令があります。神はこう仰られました:

また、上 の で言及されている取引における公正な 定や 量は、 の 所では 行 における正 としても言及されています。またその延 として、一般的な商取引における正 もまた されています。またクルア ンの中には、 [??????????

(秤をごまかして らす者たち)」という 名の一章がありますが、そこでは 欺行 を行う者に する の警告がその章を通して て取れます。

また正 の言及は、一夫多妻の文 においても垣 ることが出来ます。クルア ンは、全ての妻と平等に接することを命じています。一夫多妻に する は、 利の剥 や不正を蒙る可能性のある孤 の少女に しての言及によって始まっています。このような少女らは 婚 期にしたら、たとえ かの 妻であったとしても、嫁がせられなければなりません。それは特に、男女の数が不均等である状 において されます。ちょうどウフドの 役 がそのような状 でしたが、この はその当 に 示されたものです。クルア ンは、こう言っています:

として、著名な古典イスラ ム法学者サルハスィ の言 を引用しましょう: 「"正 の行使"とは神を信じることに次ぐ、最も高 な献身行 としての位 なのである。それは数々の使徒に された全ての の中でも最も 大なものであり、また人 が地上を管理することを正当化するにあたっての最も 得力のある弁明なのだ。」[6]

Footnotes:

- [1] ユ スフ カラダ ウィ 著「イスラ ム法学 の初 」177 。
- [2] ムハンマド カマ リ 著「イスラ ムにおける自由と平等、そして正 」111 。
- [3] サイイド クトゥブ著「クルア ンの影で」第2 689 。
- [4] アッ=ラ ズィ 著「アル=タフスィ ル アル=カビ ル」第3 353 。
- [5] リヤ ド アッ=サ リヒ ン。
- [6] シャムスッディ ン サルハスィ 著「アル=マブス トゥ」第14 59 60 。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/376

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。